

---

# チートだけど宿屋はじめました。

nyonnyon

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チートだけ宿屋はじめました。

### 【著者名】

N1661BA

n1661ba

### 【あらすじ】

若くして寿命で死んだ男がチートをもって異世界へ！？

でも無双をする気はありません。ほのぼの宿屋でもやっていこうと思っています。田舎世界一の宿屋ーー！

という名の作者好物「こつた煮小説です。まだまだ宿屋出できません。初投稿です。拙い表現やグダグダな内容など至らない点も数多くあります。と思います。が、完結を目指して頑張りますのでよろしくお願ひします。

作者は纖細なハートの持ち主です。厳しい指摘を受けますと粉々に砕け散りますのでよろしくお願ひします。

この作品は、『主人公最強』『ご都合主義』などを含みます。そういうつた内容が嫌いな方は回れ右して全速前進DA でお願いします。

## ある日突然に（前書き）

皆様始めまして。

作者です。

初投稿です。

お目汚しかもしれません。

それでもよければ

どうぞ・・・。

## ある日突然に

「いらっしゃいませ、『じゅうでこ やどりき龍帝の宿木』へ」

もつ何度もこの挨拶を交わしただろうか？

オーラクラン王国首都クランクランにひつそりとたたずむ宿屋

『龍帝の宿木』

その宿屋で

女主人『カラ・グライス』は一人物思いに耽ふけっていた。

- - - -

『龍帝の宿木』には、多くの売りがある。

例えるなら【料金】

安い。とにかく安い。

例えるなら【料理】

美味しい。とにかく美味しい。

そして何より【カラ・グライス】

美しい美貌、173cmの長身、無駄が一切ない肢体。

その全てが男性、女性、老いも若きも問わず魅了するのである。

そんなカラだが実は誰にも言えない秘密がある。

それは・・・

『元男の異世界トリッパー』であるところのこと。

## 回想

はじめまして、俺の名前は高橋竜太たかはしりゅうたそこそここの大学を出て、  
そこそここの会社に就職した今年で28になるそこそこのおっさんだ。

中には28なんてまだまだ若いところやつもいるかも知れないが、  
運動しなければすぐに腹が出てくると言えばどれだけおっさんか分  
かっていただけるだろうか？

今日は会社が休みなので久しぶりにゆっくりできる・・・つてのこ、

「見慣れた天井だ」

とても見慣れた自分の部屋の天井でしたww。

ただ・・・。

『申し訳ありませんでしたーーー』

いきなり謝つてくるこの金髪は何者だろうか？

『申し訳ありませんでしたーーー』

しかもザ・DO GE NAじゃないか。

『申し訳ありませんでした！』

まあいことりあえず、

『申し訳あー』「うるさいー！しかも徐々に『マーク』が減ってる  
！」

ベキッ！

フベシッ！

って痛いじゃないですかーー！』

「なにか問題が？」一ロッジ

『イエ、ベツリナーモ・・・』

「なーのか・・・。まあいこ。

「で、お前は誰なんだ『いきなり土下座娘』」

『そんな変な名前じゃありません！私は最高神ですー！』

サイコ・ウシンン・ベルギーあたりの芸術家だらうか？

『違いますッ！..最高・神です！..最も高き神』です！..！..

へえ～。最高神ねえす！』こす！』こ・・・。

つて最高神んんんんんんんん！..！..

『えつへん。最高神です。』

「で、その最高神が何の用かな？なんか謝つてたみたいだけど？」

『あれ！？すごい普通に切り返してきましたね！？  
おかしいなあ～もう少し最高神ネタで引っ張れると思つた  
のに ブツブツ・・・』

まあ、小説とかにはよくあるパターンだし・・・。

「てか何の用だよ、最高神（囁）さん？」

『なんか微妙に字が違う気がしますが・・・

「ホンッ！説明しましょ～！」

『高橋竜太さん！貴方は死にました！～』

は？

『貴方はお亡くなりになりました！～』

は？

『貴方は身罷りました！～』

おｋ落ち着け難しい日本語を使つな。  
大体把握したぞ、ドッキリだな。

『違います貴方は本当に亡くなつたんです！～』

「 まじで！？ 何で！？ まだ若いぞ俺！？」

あツアレカ！ テンプレカ！ 『私の手違いで殺してしまいました～』

お詫びにチート転生です 』 つてヤツか！！！

ヒヤツホ～イ！！ウホホ～イ！ チートだゼ～チート『それも違います～！！！ ・・・？』

違うの？ でも謝つてたじやん？

『私の手違いで殺したわけじゃありません。ただの寿命です。じゅ・みょ・う～～～』

寿命？ 僕寿命で死んだの？ まだ28なのに？

てか寿命で死んだんなら何で謝つてたんだ？

『え～とりあえず説明しますね、

貴方は28歳になつた2カ月後、自宅睡眠中になぜか亡くなる、それは神様手帳にも書いてありますので間違いありません。』

「ちよっとまで、何だ”なぜか亡くなる”つてのはー？」

『気に入らなければ設定考えるの面倒だったんですね。』

28年前の私が・・・』

『それはそれとして私が謝つていた理由は、貴方が入るはずだった輪廻の輪に別の人を入れてしまつたんです。

そのせいで空きスペースがなくなり貴方の入る余地がなくなつてしまつた。

なので貴方は輪廻の輪に入れずあぶれてしまつた。

ということです。テヘツ』

『テヘツ』じゃ・・・ね~じやろがい!!!

訳が分からん!そもそもなんで別のヤツを入れとんじやい!

『まあ理由は【ご都合主義】てことで置いておいて、貴方には選択肢が三つあります。

- 1・輪廻の輪の空きを待つ。
- 2・浮遊霊として彷徨う。
- 3・異世界へGO!!!!

私としましては異世界行きをお勧めします。

揉み消しが簡単ですので・・・ボソッ』

「今なんかボソッと言わなかつたかい?」

『イエイエナーモイツ テオリマセンガ』

『で、どれにするんですか?』

怪しい、怪しそうだなー……

『 3 . ならチートも〇〇ですよ? 』  
なに! ? チート〇〇ですとー? 明らかに怪しいがチートは  
魅力だ。

何を隠そう『俺』こと『高橋竜太』はオタクである。  
それも隠れオタクだ。

オープンには出来ないが隠れてネット小説なんかを読みまくつてい  
る。

特に日本最大の投稿ネット小説サイト『 小説を読むゼロ 』は素晴  
らしい! !

色々な人が自分の空想、妄想などをまとめて詰め込む投稿小説がい  
っぱいなのだ!

そこで様々なチート、主人公最強ものを読んで(自分ならこうする  
のに・・・)

などと妄想に浸ることもしばしばあつたほどだ。

そんな俺が憧れのチート主人公に! ? おいしい、おいしそうなー  
おいしそうで逆に怪しいが・・・

『 どれにしますか? 』

「 決まつてるだろ? だ! ! 」

こうして俺『 高橋竜太 』の異世界行きは着々と進行していくので  
った。

## ある日突然に（後書き）

ごめんでしたでしょつか。

誤字・脱字は極力修正させていただきます。

月10更新程度を目指したいと思います。

よろしくお願ひいたします。

感想お待ちしております。

1 / 4 転生者 異世界トリッパーに変更しました。

そして異世界へ・・・。(前書き)

今のところの一説田です。

どうだ・・・

そして異世界へ・・・。

やあ、せっせ振りだね 最高神（笑）に言われてとつあえず

『3・異世界へGO!...!』を選んだ

たかはしりょうた  
高橋竜太だよ。このブタ野郎。

懐かしのネタ・・・スマソ

とつあえずは回想の続きを「覗トセ」。

『ところで、チートはどうしますか？今なら大チャンス！  
大抵の願いならかなえますよ？』

チートかどうしよう・・・。

ああこの括弧つけた喋り方の金髪美女が最高神らしい。

『なんでもいいんですよ。体力無限でも魔力無限でも不老不死でも  
何ならアニメや漫画、ゲームの技でもいいですよ。』

例えば

金色王様野郎の『どこでも宝具庫』でも  
括弧付け少年の『そんなことはなかつた』でも  
ドラゴン求めてシリーズの『また王様の顔か』でも  
まったく最後じゃない物語シリーズの『勝利のファンファーレ』  
でも  
なんでもOKですよ〜』

『最後の一一つはチートか？てか、勝利のファンファーレはただ  
のBGMだろ！？』

『シリーズどうしてあんなに変わらないBGMはもはやチートとい  
つていいと思いません』

まあ確かにほとんど変化がない素晴らしいBGMではあるが・

・・。

「それはそうとして、俺が行く世界はどんな世界なんだ？」

やつぱりそこは気になるだろ。

『　え～剣と魔法の世界ですね。亜人やドワーフンなんかいる世界です』

なるほど……ついては、

「戦争とかもあるってことか？」

やつぱりそこは『眞』になるだろ。 つい、この反応2回目  
！－

『そんなことはありません。基本平和です。時々魔物が村を襲つぐ  
らいで』

『それで大体どんな能力がいいかは考えましたか？』

まあ平和だつてなんなら。

「女になつてみたい」

やつぱりこれだろ。

『・・・・・・・・・・・・は？』

「女になつてみたい」

『いやいやいやいや・・・おひつと待つてください！－？

えつい

きなりですよね！－？

さつさまで「チート、ヒヤホ～イ」とか言つてませんでしたっけ？

それがいきなり女になつてみたい！－？話が飛躍しすぎです！－！

！－？』

まあ確かにそう思うかも知れないが・・・

「あんた最高神だろ？俺のこととかも全て知つてんだろ？  
なら知つてるだろ、俺がバーチャル世界では女主人公を使つてる  
つて」

そう俺は所謂『ネカマ』つてヤツだ。

最近では最低の詐欺師みたいな不当な扱いを受けたりするが・  
・・。

だが俺は誰にも咎められるつもりはない！！

現実世界で体験できることをするのがバーチャル世界！！

不細工だつてイケメンになれる！！

年寄りだつて若くなれる！！

ならば男だつて女になれる！！

それがバーチャル世界！！

だから俺はバーチャル世界では女になつている！！！

「だから俺は投稿小説を読みながら・・・。

自分が異世界にいけたら女になりたいと常々思つていたん  
だ！！！」

これはマジだつた。

男の子が憧れる夢TOP10にはあるんじゃないだろうか？  
心のどこかでは女になつてみたいと思つてゐるんじゃないだろう

か？

それを叶えたいと思うのは不適切なことだろうか？

しかも幸いなことに俺は『年齢』『彼女いない歴』ではない。

それなりに体験も済ませた。ある意味男として悔いのない人生を歩んだと思う。

だからこそ第一の人生は女として生きてみたい。

こう思うのは間違つていないとと思う。

『 そうですか、そこまで熱い松岡 造並みの熱意を見せられたら仕方ありません。

貴方を女として異世界に送ります。ただ・・・。

今回は転生ではなくトリップなので肉体を作りかえる」とになりますよ？

激痛迸りますよ？

肉体と精神のギャップで悩むかも知れませんよ？

それでもいいですか？

最高神が心配そうに聞いてきた。

その表情から『以前にも同じことをしたやつが俳人（誤字にあらず）になりましたよ？』

という無言のプレッシャーを受け取つたが・・・。

「もちろんOKだ！　　”肉体と精神のギャップで悩む”だけは緩和するよつにして欲しいかも・・・」

俺の答えは決まっていた。

『承りました。では他のチートはどちらしますか？願いゲージの100分の1も使っていませんけど？』

そんなゲージあったのか……まあでも他は……。

「じゃあ……適当に生き残れるぐらいの能力をくれ……！  
別に魔王とかを倒すわけじゃないならそれぐらいでいい

まあ無双したい訳じゃないからなあ。死なない程度の能力で。

『分かりました！』ちらりと最高の状態に仕上げます……楽しみにしていて下さい』

素晴らしい笑顔で最高神は言い切った。

別にそこまでは求めてないよ……？

『…………では次に目覚めた時には向こうにつけていますので……。』

それでは……よき異世界生活を……』

その言葉を最後に俺の体を黒い……いやドス黒い球体が包み込んだ。

『そこにはテンプレで落とし穴だろ……！……』

なんてことを叫んだと思つが次の瞬間には俺の意識はなかつた。

『ようやく逝きましたか・・・。なかなかに面白い人物でしたね。  
さて・・・、天ちゃんが来るまでに記録の改竄 改竄 つと』

- - -

こうして俺『高橋竜太』は異世界に旅立つたのである。

そして異世界へ・・・。（後書き）

お分かりいただけただろうか・・・

作者の文才の無さが・・・（泣）

それなのにじつた煮小説を作らうとする無謀が・・・

次からは異世界です。

宿屋はまだまだ始めそういうあつませんが気長にお待ち下さい。

それでは次話もよろしくお願ひいたします。

異世界はじめました。（前書き）

二話です。

短めです。

どうぞ。。。

## 異世界はじめました。

田を覚めないとやは・・・。

「知らない天井・・・

すらなーーー！」

雲ひとつ無い青空だった・・・。

雲ひとつ無い青空だった・・・！？

俺は慌てて体を起こし周りを見た。

- - -

草原。まさにそう呼ぶしかない美しい緑の絨毯が眼前に広が  
つている・・・。

「綺麗なところだなあ。でも、ここはどこだろ？

最高神は田覚めれば異世界とか言つてたけど・・・」

そつだッ、あの最高神は確かにそつ言つていたはずだッ。

なーいーは異世界のどこかか？

『そうです  
ここには首都クランクランから西へ少し行つたところにあるマルタ  
イの草原だよ。』

いきなり頭の中に最高神の声が響いた。

「うッ！キモチ悪ッ！頭にめっちゃ声が響く！  
ダメだ・・・。一日酔いになつたときみたいだ吐きそう・・・（  
泣）」

テンションが言葉では言い表せないほど下がった。

親が仮面夫婦の友達の家に泊まつた記憶を掘り起こされた。

人形みたいに張り付いた笑顔を長時間見せられた記憶が鮮明  
に頭に浮かんだ。

深夜、寝てると安心したのか滅茶苦茶ケンカしていた時の声  
がこだました。

次の日の朝は何事も無かつたように張り付いた笑顔だった。

何となく人間不信になつた。

鬱だ・・・死のう・・・。

『ストップ！ いきなり人間不信にならないで下さ……  
一応これからのこととか色々説明しますから……（泣）』

「それならぼよしッ！」

復活した。

『 唰然

「どうした最高神？ 早く説明をしてくれ」

『 立ち直りが早すぎませんか？』

まあそれが取り柄だったしな。

『まあそれより毎度毎度、最高神と呼んでいては不便でしょう？  
これからは私のことはウシンと呼んでいただいてかまいませんよ  
？』

ウシン？ それはベルギーあたりの芸術家の名前じゃ……？

『なんとなく気に入りました  
これからはサイコ・ウシンと名乗ることにします。  
ありがとうございます。』

では、突然ですが説明に入りたいと思します

『氣に入つてもうつて何よりだ。じゃあ説明口口』

俺はウシンの話をじつと待つた。

・・・。

・・・・・。

・・・・・。

・・・まだか?

「・・・おこわシンヒ、まだか?」

つこつとい聞いてしまった俺は悪くなこと悪ひ。

『うひと待つてださこ。今説明資料をFAX中ですかりーーー』

ああ～番号押し間違えたーーまた入れ直しだよーーー(泣)

どひして貰れるんですかーーやつと87行まで間違えずに入れてたのにーーー』

逆ギレーーしかもFAXーーどひ届くのーーとか番号間違ーーー

三段を超えて四段ソシ ロリじてしまったーーー。

他にもソシ ロリたことじるはあらがひととまづ、

「あ～なんかすまん。FAX届くまでおとなしくしてまわ」

謝っておいで。

『分かればいいんですよ分かれば。

・・・・え、まず異世界管理番号が・・・ブツブツ・・・・・・・

875・・・・・

管理組合「I-d・・・862019・・・ブツブツ・・・・・・・登録

名義番号・・・・・2・・

I D N O ・が・・・・・22・・・ブツブツ・・上限歪曲面曲線係

S・・・・・566577

所在地ア d・・・49・・・・・・・・・・・・・・・・

これは時間がかかりそうだ・・・。

この後、念仏のような数字の弦を延々聞かされ続けるのであった。

早く届け F A X よーーーーーーー

**異世界はじめました。（後書き）**

お分かりいただけただろか。

前フリです。

次話もよろしくお願ひします。

説明せじめつました。（前書き）

因説田です。

少し長いか・・・？

どうぞ・・・

説明はじまりました。

・・・。

・・・。

・・・。

『出来ました～！～！

「う・・・間違える」と100とんで7回・・・  
やつと間違えずに番号を入れきました！～！』

「ええ～！びっくりしたあ、いきなり大声出すなよ。

『まあまあ良いじゃないですか、それでは改めまして・・・

説明しよう！～！』

ウシン（最高神の名前b も命名俺）が

『某世紀末の暗殺出来ない暗殺拳の必殺技に対する解説』の様に叫  
んだ瞬間・・・

シコピッ！ ジーーーーッ。 ジーーーーッ。  
ジーーーーッ。 ジーーーーッ。 ジーーーーッ。

田の前の空間に亀裂が走り、大量の紙が出てきた！～！

大量の紙がてきた！～？ ・・・ツスゲエ～！ 神様F

A Xスゲエ～！！！ 神文明ハンパねえ！

「スゲエよウシン！！FAXつてこういうことだつたんだな！空間割れやがつたゼッ！！！」

ついつい大声ではしゃいでしまつた俺は悪くないと思う。

俺が（ウシンのことだから『ヒツヘン…驚きましたか？苦労したんですよFAX送るの…』とか言つんだらうな）と、近所の小学生を見つめるお年寄りの様なほのぼのとした雰囲気で返事を期待していると。

『 まずは人物からですね』

普通に説明はじめやがつた…。

えッ！？何ッ！？俺の期待を返せよ…。

『名前はカーラ…』

完全に説明モードに入つてゐるウシンには何を言つてもダメだつた…。

これはイジメか？

- -

人物設定

- -

名前 : カーラ・グライス（元・高橋竜太）

性別：女（元・漢女）

年齢：17歳（元・28歳）

身長：173cm（元・178cm）

体重：乙女の秘密（元・漢女のヒ・ミ・ツ）

3サイズ：皆が羨ましからうプロポーション（元・それなりの体形）

ちよつと待て……。この括弧は何だ…？俺は漢女じゃねーよー

さすがに講義の声を上げよつとしたが、やつきのガン無視を思い出  
した……。

無視つてひどいイジメだよねえ。気づいたらクラス中に感  
染したりするし……。

昔、学校の授業でイジメについて学んだときにイジメられ役をやつ  
たんだよねえ……。

色々イジメ方はあつたけど無視は一番ヒドいと思つたからなあ……。

イジメ、ダメ、ゼッタイ！

そんな俺の心情をほつぽつて説明は続く……。

能力	:	H P	5 0 0 / 1 8 9 0 0 0	( M A X 9 9 9 )
M P	9 9 9 / 2 9 6 8 7 0	( M A X 9 9 9 )		
A T K	1 9 8 0 5 3	( M A X 1 0 0 )		
D E F	8 9 6 9 7 3 0 2 9 1	( M A X 1 0 0 )		
M A T	3 4 5 2 9 8	( M A X 1 0 0 )		
M D F	8 6 7 5 3 3 5 4 9 6 0	( M A X 1 0 0 )		
S P D	5 0 0 ( M A X 1 0 0 )			

すでに H P が減ってる……？でもチートすぎる能力値！でも S P D だけ微妙！？

横の括弧は何だろ？ M A X ？

- 『括弧の中はこの世界の住人たちの最大値ですよ』
- 『オール M A X の存在なんて有史以来いませんけど……』
- 『つまり貴方は、最強です！』
- 『どれほど最強かと言いますと……、

過去最強を誇り、一年で世界の半分を手に入れた魔王の能力平均が 78 ぐらいです！

やつたネッ！超最強 ！……』

ババン！……と S E がつきそつた勢いでウシンが言い切った。

ああ、そういうことが……。

ってチートすぎる

だろ！？最低限生きていけるだけの

能力をお願いしたはずなのに！？といつか防御特化すぎるだるこの能力値！！

『もてる最高の技術をつぎ込みました！製作時間3分にしては上出来です！』

3分！？3分なのこの能力！？！？

『でも・・・・・、驚くのはまだまだですよ！まだスキルまで行つてないですから』

わらにチート上乗せ！？もうお腹いっぱいでゲス・・・。

神様3分製作スキル　BGM・某三分では作れるようなものでは無いのに無理やり創る番組。：

【四重結社】ファンタメンタルナルチルドレン；神が何となく名づけてしまったスキル。

効果は絶対防護の進化版。

基本無敵です。

『ニ ネーマーカー』で作成しました。

【混沌の情報網（アルティメット・ウイキ ディア）】・調べた  
いことが基本乗っている。

が、信頼度は微妙。

パソコンサイト『ウイ ペディア』を頭の中で再現している。

しかも常に最新の記事に更新されていく。

【悪魔の微笑】一二〇ボボボン；伝説の最強技。

最強系主人公が大抵持っている『二コボ』の最終進化系。  
どんな生物も微笑むだけで惚れさせてしまう。

そのあまりの『ポツ』率の高さゆえに悪魔の所業だと恐れられた。

【女の敵】<sup>ホニミー・オブ・トライア</sup> ; 女性の悩みに一切かからない。  
それはもう一切かからない。『ダイエット? ? ? ? なにそれ美味しいの?』 状態。

ついでにトマトとは女性を表す言葉でもあります。

【神の仕業】<sup>ダイバイン・アクト</sup> ; 神の思いつきによりスキルが増える。  
所謂【「都合主義】<sup>コヨノハナシ</sup>。たぶん贅沢論がある。

チートだ・・・。『これはチートだ・・・。何気にも3分で思いつかなかつた分を後から  
補充できる配慮までしてある。 とつあえず「」はな  
・・・。

「なんじやあ「」じやあ「」」（某殉職）<sup>テニム生地ズボン刑事風</sup>（）

『おお～松 優作ですね～懷かしいな～』

ウシンがしみじみとした表情（擬音を付けるならホーヤー）で決まり  
だ！異論は認めん！）でつぶやいた。

いや、顔は見えないですけどね。  
コタツとみかん、日本茶があればどいじやの年末スペシャル番組を見  
る年寄りのような反応である。

『まあ人物についてはこのくらいです。次は世界について説明して  
いきますね』

人物だけでもうく疲れた・・・。

H P減つてんじゃね

えの?

ウシンの説明はまだまだ続く・・・。

## ウシンからのFAX下部空白欄

神の設定集  
( カーラたちには見えていません。  
そつ言づ仕様です )

主人公設定 :

若くして寿命で死んだ主人公。最高神のよく解らない失敗により異世界行きが決定した。

異世界に送り込まれる際に女へと性転換する。

元・男のネカマ君。少しオタクだがニートにあらず。ちゃんと就職もしている。

性転換後は『カーラ・グライス』と名乗る。

容姿は「ブーチ」の『一さん』の髪の毛を白くした感じ。

服装は「シュー・アリア」の『一ラ』

チート能力はハンパじゃない!!!!

これから色々な人を魅了していく罪作りな女性。

**主人公の裏設定 :**

17歳に若返っているのは少し転生感を出すための神の計らい。  
黒い球体に包まれてから肉体の再構成のために遺伝子レベルでの改  
造が施されている。

黒い球体のなかでは0歳から17歳までの17年の年月がたつてい  
る。

そのため、赤ん坊から17歳まで成長しているのだが、本人には一  
瞬の出来事のため覚えていない。

成長の間に様々な知識の植え込みも【ご都合主義】の名の下に施さ  
れている。

ニコポ的チートを持つているが基本笑わない方針で行きます。

**最高神設定 :**

サイコ・ウシンと主人公に命名される『最も高き神』  
といつても、唯一神のため他に神はない。  
容姿は金髪、美女。（後はご想像にお任せします）  
服装は神様にありがちなアレ。

世界の全てを管理しているスゴイ人。

ほんの少し出てきた『天ちゃん』とは秘書の天使のこと。

世間に出てくることはほとんど無い。

なので、世界各国で信仰されている数々の神は全て地上偵察部隊の  
天使たち。

**最高神の裏設定 :**

元は美青年でした。

暇をもてあましたので主人公を異世界に送り込もうとしたくらむ黒い  
性格の持ち主のはずでした。

初期設定では最近楽しかったことに『太陽系を作るために行つた隕  
石ビリヤード』にする予定だった。

そしてなぜか関西弁を喋る予定でした。

金髪美女で容姿の説明が適当なのは美青年からの変更だったのを考えていなかつたから。

年齢は『 禁則事項です。

歳』

**説明はじめました。（後書き）**

お分かりいただけただろうか。

小説と設定資料を混ぜてみました。

次話もよろしくお願ひいたします。

説明が終わつました。（前書き）

五話目です。

熱が出てしまふこともしないでください。

どうぞ…

説明が終わりました。

青々とした美しい緑が広がる草原

### 『マルタイの草原』

その昔5千という魔物の大群に対し、たった10人の戦士で立ち向かった英雄『マルタイ』の名が付けられた誰もが知る草原である。当時なんと呼ばれていたかは資料の喪失により解らない草原だが、この草原で魔物を殲滅したマルタイ達の功績を称え、隊長であつたマルタイの名を冠する様になつたらしい・・・。

補足ではあるが当時のマルタイの部隊は『マルタイ十勇士』と呼ばれる様になり、英雄譚には必ず登場する程のビックネームである。

今では当時の激闘の後も無く、どこか長閑で牧歌的なイメージすらあるこの草原で、

一人の女が大量の紙の束をもつて何も無い空間に相槌を打っていた・・・。

どこからどう見ても頭のおかしい女であるが、  
その顔はとても整っており、むしゃぶり付きたくなるような素晴らしい肢体をくねらせる様は

どんな聖人君子でもノックアウトであろう。  
面で・・・。

主に性的な方

その素晴らしい身体の持ち主『カラ・グライス』は一人静かに頷き続けている。

- -  
『それでは次の説明に移りますね』

語尾にマークでも付いているんじゃないかというぐらい明るいテンションで、『俺』の頭に響く声『サイコ・ウシン』が告げた。

てか実際マーク付いてるだろ！？それと何だあのマルタイに対する説明！？いるのか！？

『はい、モノローグに突っ込まないで下さい。』

次は世界についてですね。資料の12ページをご覧下さい。』

いや、でもいら『ご覧ください』・・・はい・・・。

『俺』は静かに領き大量の紙の束から12と書かれた一枚を取り出した。

- -

## 世界設定

クラン大陸 :

トランプのダイヤのマークを少し崩したような形の大陸。

【唯一神『クラン』が作り上げた】と伝承などには記載されている。大陸の中心にオーフラン王国があり、西にはマルタイの草原が大きく広がる

自然豊かな土地である。

北には『エルクラン帝国』、東には亞人の国『ミルクラン王国』の二大国が居を構え、

南にはドラゴンが住むとされる『クランリード山脈』が雄大に腰を降ろし、見るものを圧倒する。

マルタイの草原を越えると魔人達の集落が点在する通称『魔人の園』がある。

ファンタジー世界にありがちな国家間の戦争などはほぼ無く、互いに協力しあい魔物の大侵攻に備えている。

いたつて平和な世界である。

オークラン王国 :

大陸で初めて冒険者ギルドを設立し、冒険者の地位向上を目指した元貴族にして冒険者『カイル・オーケラン』が収める大陸最大の国。国王は世襲制ではなく、国王に相応しいとされる人物を法具『クランの導き』が選定している。

国王が存命中でも相応しくないと法具に判断された場合は国王の交代もありえる。

国王自らが元冒険者であり、冒険者ギルド発祥の地として冒険者の数が多い。

大陸間の交易の中心地として大いに発展している。  
通貨、言語などは大陸共通のものを使う。

宗教は唯一神『クラン』を奉ずる『クラン教』

二大国 :

『エルクラン帝国』と『ミルクラン王国』を指す。

基本的に仲の良いクラン大陸の国の中で特別に仲の良い国。

エルクラン帝国は魔法技術、科学技術共に高い水準をほこており、魔導具なども作られている。

ミルクラン王国との交易により豊かな自然の恵みを数多く受け取つ

ている。

ミルクラン王国はエルクラン帝国の高い技術力を受け、自然の保護などに力を入れている。

しかしミルクラン王国は亜人しか住むことが許されていないため人のハーフは全て他国に行かなければならぬ。（入国の規制がされているわけではないので商売などは出来る）

また、唯一ハイエルフ族だけはその高いプライドからか他国との共存に強い拒否感を顕わにしている。

魔人の園 :

魔人達の集落の総称。

魔人には国や国王といった感覚が無く誰でもフランクに付き合いつものが多い。

長老と呼ばれる者を筆頭に20～100人規模で生活をしている。長老の決められ方や集落のまとまり方などの決まりごとは詳細不明。高い知能と魔力を持つが、魔物と同一視されることもしばしばあるので基本は園から出ることは無い。

（伝承などでは魔王は魔人の中から生まれたとされている）

クランリード :

ドラゴンの生息地。

他の魔物もワンランク強いものばかり。

- - -

以外にありがちな設定だな。

『まあ冒険のできる世界を作ろうとした結果ですよ・・・私、人の争いのドロドロした感じ嫌いですし・・・』

「なるほどだから平和な世界なのか。

それよりも続きは？」

『あツー！はい次は大陸共通の事項です』

- - -

クラン教 :

唯一神『クラン』を奉ずる宗教。クラン大陸において90%近くの人が入信している。

「全では『クラン』神の元に！！」を教義に掲げている。地名にクランの名が多く見受けられるのもクランが世界を作つたとされているから。

唯一神『クラン』 :

最高神が送り込んだ地上偵察部隊の天使。偵察が目的なので加護を与えてたりなどはしない。

- - -

クラン入りこんでるなあー。ほほクランの独壇場じゃね？

『いや～ビックリしましたよ私も。偵察に出した天使がまさか『唯一神クラン』なんて呼ばれているなんて（笑）』

といふかマジクランすげえな。入信率90%の宗教つて何だよー？

『本人は私を差し置いて『唯一神』と呼ばれることに大変恐縮しているみたいで・・・』

『 今も私の目の前で入射角45度ジャンピング土下座をかましますからねえ・・・』

そつか・・・。大変だな中間管理職天使『クラン』は・・・。

クラン語 :

大陸のどこでも使用できる共通言語。

国により少し訛りが違うがあまり気になるようなものでもない。文字はぶつちやけアルファベットを90度回転させただけであり、ローマ字記入で言葉を作っていく。

文法は日本語と変わりない。

主人公には知識がインプット済み。

なんだ、このインプット『済み』ってのは!?.いつの間に入  
れたんだ!?

『あッそれは【じ都合主義】です。これから的生活が困らない様に  
私からの配慮です』

「あ、ども、ありがと『じぞうしゅ』

『いえいえ、それでは次に硬貨について説明します。これは実物を  
みてもらつたほうが早いですね。

じゃあまず一番小さい硬貨から・・・』

ん？硬貨？実物？

「 まで、実物は貰つてないぞ？」

『・・・あれ？送つてませんでしたk・・・。  
せんでしたねえ・・・。

今送ります。少々お待ち下さい』

また、長時間待ちか・・・。

『はい。送りました』

あれ？えらく早いな？リダイヤル？まあ良いか・・・。  
また、FAXみたいに空間割れるのかな？楽しみだ。

・・・。

ワクワク。

・・・イイイ。

ワクワク。

・・・イイイ。

ワクW・・・？

キイイイイイイン！-！。

オン！-！-！-！

チユドオオオオオオオオ

「のわ――――

ジェット機などが音速を超えて飛行する際に発するであろう高音とそれとともに飛来した何かが地面との衝突により生んだ爆裂音が俺の身体を叩いた。

「なんだ――？」

もつもつと立ち込める土煙の中、俺は飛来してきた物体に目を凝らした。

金貨？いや他にも銀貨や銅貨もあるぞ―？

多分ウシンの言つたいた実物だろう硬貨が約500円ほどのクレタを作りそこにあつた。

いやいやいや！あの音にしたらこのクレータは小さ過ぎるだろー！ つて言つよリ・・・

「あぶねえだらうがウシン――――FAXみたいに優しく送れよ――！」

うん、これは怒鳴つても仕方ないだろ。

『だつてえー、FAXみたいにいー空間跳躍でえー送りひとつするとおー、座標のおー指定とかあーすゞぐ面倒くせくてえー』

ウザH、果てしなくウザイ喋り方だ。この場にいたらあの金髪全て剃り取つてゐとこひだ！

『「めんなさい。自分でも少しウザかったです・・・まあ今日は時間もなかつたので全力投球させて頂きました』

「え！？あれ投げたの？臂力ドンだけだよ！」

『まあ暇つぶしに』『こ 龜』全巻を2時間で読破するようなだらけた生活を送っていても最高神ですから。

高々49825億光年程度の距離なら六畳部屋の端から端にボールを投げるよりも簡単なものですよ』

『では、説明を続けますね』

まで、光年って光が進む速さで一年かかる距離のことだらう？数秒で着たぞこの硬貨！？てか『こ 龜』を2時間で読破つて速読レベルじゃねーだろ！？

『この硬貨はくー・・・』

やつぱり説明モードのウシンたぬ句を言いつてもダメでした・・・（泣）

やつぱりイジメだろコレ・・・。

- - -

クラン硬貨 :

金貨、銀貨、銅貨の三種類からなる。

1金貨 = 100銀貨であり。

1銀貨 = 100銅貨である。

日本円に直すといぐらという換算はきかない。

やはりといふか硬貨の表面にはクラン神が描かれている。

なぜかは不明だが魔物を倒すと手に入れることが出来る。

- - -

『 じとなどじゆでしょうか・・・あらへ』

シクシク、メソメソ。

『 何泣いてるんですか? とりあえず説明は終わりましたよ? これから異世界生活ですよ? 』

「 お前が無視するからじゃろがい! ! ! 」

大声だしてスッキリした。

うん、メソメソしてるなんて俺らしくないな。

『 によわー! 急に大声出さないで下をいよ! ! ! 』 それよつこの説明が終わつたら私はもう引っ込みますから

えつ? お別れなのか?

いきなりのお別れ発言、少しでも一緒にいた時間があるので何とか寂しくなつた。

『 まあ元々私はあまり現世に干渉してはいけないのですよ・・・。

まあクランを通じて世界は見ていますのでコレからの人生楽しんでください』

「 もうかなら仕方ないな、せいぜいこれから的人生楽しんでこくせ! 」

『はーそれではよしよし』

その言葉を最後にウシンの声は聞こえなくなった。

少しの寂しさを覚えながら俺は王都に向けて歩き始めた。

いつして長くて短いウシンとの付き合にも終わり、カーラとしての人生が始まったのである。

「 やっぱり女らしく私といったほうが良いのだろうか?  
この紙の束はどうしよう…」

- - -

『ふ〜説明も終わりましたし後は時々覗いてみれば良いでしょ?』  
『…………あれ?天ちゃん?どうしたんですか?そんな良い笑  
顔で……?』

その日、神殿に響き渡る神の懇願の声は天使全員を震い上が  
らせたといつ。

ウシンからのFAX下部空白欄

神の裏設定集

（カーラたちには見えていません。

そういう仕様です）

国王を元貴族にしたのは、【貴族は平民より優れた能力がある】と  
いう裏設定があります。

具体的には【力が強くなり易い】【魔力が高くなり易い】などです。  
コレは貴族という称号がステータスUPの補助をしていると考えて  
下さい。

さらに一応ですがロープレの世界観がありますのでレベルUPなど  
もあります。

主軸はロープレですので。

硬貨の説明で日本円への換算は出来ないとしていますが、

ぶつちやけ物の値段をいちいち調べて並てはめるのがめんどくさか  
つたからです。（笑）

説明が終わりました。（後書き）

お分かりいただけただろうか。

ウシン最終回のお知らせです。

次話もよろしくお願ひします。

無双しないとか言ってたけどちょっとはやせますので、  
戦闘描写なんてしたことないので不安ですが近いうち元気であります。

それでは。

王都を出発しました。（前書き）

六話目です。

どうぞ

## 王都を目指しました。

広大な草原を一人歩く女性がいた。

褐色の肌、腰まで流れる白い長髪、輝く美貌、素晴らしいプロポーション、全てが神が配置したのではないかと思われるほど絶妙のバランスで173cmという世界に納められている。

そんな女がたつた一人で歩くにはこの世界は平和になりきれてはいなかつた。

自分をねらう6つの目があることにも気づかず、カーラ・グライスは歩き続けていた。

- - -

面度だなあ。結構遠そつだぞ？王都まで・・・。

俺は内心愚痴たっぷりに一枚の紙を見ながら歩いていた。

王都から少し西に行つた所にある『マルタイの草原』にいるはずなんだが未だに草原を抜けることが出来ない。

最高神と別れた後からまっすぐ東に歩いているのがかれこれ2時間は経つ。

すでに太陽は真上を少し過ぎたあたりだ。

しかし持っていた紙が消えるとは神文明はやはりすごいな。

そうである。歩き出して少ししてから紙は溶けるように消えてしまつたのである。今手元にある一枚の紙を残して。

果たして残つた一枚は地図？であった。

見えるのは自分の目視がきく範囲のみで後は白紙。自分の行つたことがある範囲しか表示されないなんともゲームなどよく見かける手法の地図である。

唯一方角が分かるのは救いだつたが・・・。

まあこれもウシンの配慮つてヤツだろう。

にしても、あの三人をつきからこそ何やってるんだ？二十分ぐらい同じ方向に歩いているから田的は王都だと思うけど・・・。

カーラは気づいていた。

まあ見晴らしの良い草原でこそ隠密行動が取れるはずもないが・  
・。

- -

「アニキどうしやすか？」

「あんな良い女めったにいないんだナ」

「そうだな、別に生娘が求められてるわけでもないし、俺達で楽しんでから貴族様に売りつけに行くか」

アニキと呼ばれた男はそういうと、汗や泥で汚れた顔を醜く歪ませた。

彼らは所謂賊である。

平和なこの世界にもバカ貴族は多数存在し、その権力をフル活用して女を力ずくで奪つていくなんてことを平氣でやってのけるのだ。そのバカ貴族から依頼を請け、多額の賃金と引き換えに女を連れて

くるのが彼ら賊の仕事である。

彼らは元冒険者だった者達だ。

依頼に失敗し信頼を失ない、ギルドから除名処分を受けた所謂冒険者くずれ。

信頼を失つた冒険者でもその身体能力は一般人を軽く超えるので、真つ本当に生きようとすれば就職先など沢山存在するのだが・・・。彼らは、あまり苦労せず多額の金をもらえる賊という仕事の魅力にはまつてしまつていた。

女一人連れて行くだけで、平民が五年は余裕で遊んで暮らせる金が手に入るのだ・・・。まじめに働く気などなくなるだろう。なので冒険者家業に失敗した者達が賊になるケースは意外と多い。賊の中でもランク分けがあり、彼らは中々の高ランクの賊である。貴族によつては幼女趣味であつたり、生娘しか受け付けないなど变态趣味丸出しのやつらもいるが、

彼らはとりわけ美しければOKという貴族の依頼ばかりを引き受けていた。

目的はもちろん      自分達も楽しむためである。

自分達も楽しめるのだから依頼にも力が入るのは当たり前だつた。今回もお得意様の貴族から依頼を受け、広大で王都守護の騎士隊からも逃げやすく、魔物も少ないマルタイの草原で獲物を探していったのである。

そんな彼らが草原を一人歩く美少女、カーラに目をつけない筈がない。

彼らは逸る気持ちを抑え、カーラの前に飛び出した。

- - -

「」あなたがどうしたんだい？お嬢さん？」

男共が一ニヤ一ニヤいやらしく笑みを浮かべながら話しかけてきた。

いや、お前ら結構前から見てたよな？あれか賊つてヤツか？  
ウシンの野郎～！平和な世界つて言つてたじやねーか！！第一  
異世界人が賊つてどこが平和な世界だよ！！！

「おいおいおい、アーニキが問いかけてんだ何とか言つたらどうなん  
だい？」

「そなんなんだ。何とか言つたらどうなんだナ」

俺がウシンに対して愚痴をこぼしていると、いかにも ネ夫といつ  
たガリ男とおにぎりが大好きそうなデブが話しだした。

「今、王都に向かっているんですが道はこっちであつてますかね？」

とりあえず問い合わせてみた。

「ああ、あつてるぜ」

やつぱりニヤニヤした表情で男がつぶやいた。

「そうですか。ありがとうございます。」

「それでは。」

特に用事もないし、あまり付き合いたい人種ではないので、  
男達の横をすり抜けようとした。

しかし・・・。

ガツー！

「おこおこ、までよ。ただで通ろひつてのか？」

「せうだぜ、通行料出せよ通行料！」

「だナ」

急に肩をつかまれ強制的に男共の方を向かせられた。

やつぱり無理か・・・。でも金は持つてないしな。金貨一枚で足りるのかな？

幸い実物としてウシンに貰っていた金貨がある。

金貨の価値は未だ分かつていないので不安だが何とかなるか？と半ば祈るような気持ちで問いかけた。

「・・・・あ～金貨一枚しかないですけど足りますかね？」

「足りるわけねーだろ！アーキは最低でも金貨三枚は必要だとおっしゃっているぞ」

「だナ」

ダメだった・・・。

面度くさいなあ～。ぶつ飛ばしてやひつか？

やダメだ・・・。今の俺はか弱い乙女なんだ。とりあえず何となく言つてきそうな事は分かるが・・・。

「三枚！？そんなに持つてない！？」

驚いたような声で言つてみた。中々名演技だと思つ。主演女優賞は

いただきだ

悲しいかな【悪魔の微笑み】のせいでクスリとも笑うことが出来ないが。

てか微妙な表情の変化しかさせられなくなっている気がする・・・。コレもスキルの副作用か？

「へつへつへつ、じゃあしかたねーな。カラダで払つてもらおうか」

コレまで最大級にいやらしい笑顔で男は、テンプレで想像の域を超えない、ありきたりで何のひねりもない、小者臭がブンブン臭うセリフを吐き捨てた。

ここまで想像通りのセリフだと逆に哀れみを覚えるな・・・。まあ払う気もないし。

「・・・・え？いやですよそんなこと。というか小者臭いですよ発言が。そこまで小者臭いと逆に哀れになりますね・・・。大物の発言を学んできたらどうですか？」

とうあえず言つてみました。

すると田の前の男達の顔が見る見る真っ赤になつていきました。

「てめえ優しく言つてやりや団に乗りやがつて！……犯してヒイヒイ言わせてやるからな！……」

そう叫ぶと男は腰に差していた剣を抜き放った。

ウシンよ、はじめてであった異世界人がいきなり敵になりました。全然平和じゃねーよこの世界！

異世界初の戦闘は、じつや魔物ではなく対戦になります。

王都を目指しました。（後書き）

お分かりいただけただろうか。

軽く挑発してみました。

次話初戦闘か？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1661ba/>

チートだけど宿屋はじめました。

2012年1月10日22時46分発行